

< 参考和訳 >

AIG、第3四半期の純利益、42.2億ドルに

2006年11月9日(ニューヨーク発): AIGは2006年第3四半期の純利益が、前年同期の17.5億ドル(希薄化後1株当たり0.66ドル)に対し、42.2億ドル(希薄化後1株当たり1.61ドル)になったと発表しました。純利益は、現行のFAS133号(デリバティブとヘッジ活動の会計処理)の規定ではヘッジ会計処理の対象にはならない為替差損益などに関する財務的に有効なヘッジ活動の影響を含んでいます。2006年第3四半期の修正純利益は、以下に示すとおり、前年同期の18.6億ドル(希薄化後1ドル当たり0.71ドル)に対し、40.2億ドル(希薄化後1株当たり1.53ドル)となりました。

2006年初めから9ヶ月間の純利益は、前年同期の100.3億ドル(希薄化後1株当たり3.82ドル)に対し、106.1億ドル(希薄化後1株当たり4.04ドル)となりました。2006年初めから9ヶ月間の修正純利益は、前年同期の83.7億ドル(希薄化後1株当たり3.19ドル)に対し、115.5億ドル(希薄化後1株当たり4.40ドル)となりました。

2005年第3四半期および2005年初めから9ヶ月間の結果は、異常災害関連損失(税引後)の15.7億ドル(希薄化後1株当たり0.60ドル)を含んでいます。2006年度中は、重大な異常災害は発生しませんでした。

2006年第3四半期中、会計に関する継続的な改善関連の一環として、特定の期間外修正を計上しました。これらの修正により、純利益は7,300万ドル、修正純利益は5,000万ドル増加しました。詳細については、2006年9月30日に終了した四半期についてのForm 10-Qの報告書に記載されています。

第3四半期

(単位:百万ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

				希薄化後1株当たり		
	2006年	2005年	増減	2006年	2005年	増減
純利益	\$4,224	\$1,745	142.1%	\$1.61	\$0.66	143.9%
プライシング利益(損失)を含む実現キャピタル・ゲイン(ロス)、税引後	(62)	14	-	(0.02)	-	-
実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前のFAS第133号に基づく利益(損失)、税引後(a)	267	(133)	-	0.10	(0.05)	-
修正純利益(b)	\$4,019	\$1,864	115.6%	\$1.53	\$0.71	115.5%
利益に対する重大な当期異常災害関連損失の影響額	-	\$1,569	-	-	\$0.60	-
平均発行済み株式数				2,626	2,624	

9カ月

(単位:百万ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

				希薄化後1株当たり		
	2006年	2005年	増減	2006年	2005年	増減
純利益	\$10,609	\$10,033	5.7%	\$4.04	\$3.82	5.8%
プライシング利益(損失)を含む実現キャピタル・ゲイン(ロス)、税引後	(88)	19	-	(0.03)	-	-
実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前のFAS第133号に基づく利益(損失)、税引後(a)	(890)	1,644	-	(0.34)	0.63	-
会計方針の変更による累積的影響額、税引後(c)	34	-	-	0.01	-	-
修正純利益(b)	\$11,553	\$8,370	38.0%	\$4.40	\$3.19	37.9%
利益に対する重大な当期異常災害関連損失の影響額(税引後)	-	\$1,569	-	-	\$0.60	-
平均発行済み株式数				2,625	2,624	

- (a) FAS第133号に基づくヘッジ会計処理に当てはまらない関連する為替差損益を含むヘッジ活動の影響を含んでいます。
- (b) プライシング正味投資利益、会計方針の変更およびFAS第133号に基づく累積的影響額(税引後)を含む実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前の数値です。
- (c) FAS第123号規定「株式報酬の会計処理」に基づく会計方針の累積的影響額を示しています。

2006年9月30日時点の総資産は9,415.4億ドル、株主資本は961.5億ドルとなりました。

2006年第3四半期の業績について、AIG社長兼CEOのマーティン・J・サリバンは以下のようにコメントしています。

「2006年第3四半期は、ワールドワイド損害保険事業の優れた業績、ならびに、生命保険およびリタイアメント・サービス事業の業績向上を原動力に、素晴らしい結果を達成しました。今後も競合他社とは一線を画したAIG独自のグローバル・フランチャイズ、多彩な商品および販売能力を活用することで、成長戦略を実施していきます」。

「当期、損害保険事業は、正味収入保険料を8.8%伸ばし、卓越した事業利益を達成しました。2005年第3四半期の正味収入保険料は、全増加分の約3%に相当する、異常災害に関する再保険料の追加支払いによる2.58億ドルの減少を含んでいます。全体的にみて、損害保険事業は各々の成長戦略を実施し、競争面の強みを生かし、厳格な引受け方針を維持しています。当期、損害保険事業のキャッシュ・フローは潤沢でした」。

「2006年第3四半期、生命保険およびリタイアメント・サービス事業は非常に好調に推移しました。当期、米国内生命保険事業は、収入保険料の増加ならびに、正味投資利益の上昇により、利益を大きく伸ばしました。第3四半期中、配当型年金商品事業は、収入保険料、準備金ともに増加し、非常に好調でした。米国内リタイアメント・サービス事業の純フローは引き続きマイナスとなり、準備金の伸びも緩慢でした。個人向け定額年金事業は厳しい販売環境に直面していますが、個人向け変額年金事業は引き続き好調に推移しています。団体向け退職年金事業は、熾烈な競争環境の中、数多くの商品施策を実施したことで、ロールオーバー（移管）用資産を保持・獲得することに成功しました」。

「当期、米国外生命保険およびリタイアメント・サービス事業は、大半の商品部門ならびに地域で非常に好調でした。投資リンク型保険の発売が、多くの主要な市場および販売チャネルで好評を博しました。また、現在実施している傷害医療保険商品に的を絞った戦略は、期待通りに利ざやを伸ばしています。台湾市場では、昨年度投入した多くの商品ならびに、投資戦略が好結果を示していることで、今後の進展に大きな自信を得ました。日本の市場環境は引き続き競争の激化により厳しい状況が続いています。しかしながら、日本の完全な市場開放を見越すと共に、長期的な展望を確信し、AIGは商品戦略および販売戦略に基づく行動に取り組んでいます」。

「2006年第3四半期、金融サービス事業は、航空機ファイナンスおよび消費者金融事業の金利上昇の影響を受け、業績が落ち込みました。これらの結果は、FAS第133号に基づくヘッジ会計処理に当てはまらない、財務的に有効なヘッジ活動の影響は含んでいません。昨年度、インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（ILFC）は、フリートの規模を拡大しました。これにより、ILFCは引き続き有利なリース料金環境で、航空機リース需要の伸びに対応できる有利な立場にあります。当期、アメリカン・ジェネラル・ファイナンスは、低調な不動産市場環境にもかかわらず、引き続き金融債権・融資ポートフォリオの伸びを達成しました。ポーランドおよびアルゼンチンの消費者金融事業での大きな利益の伸びは、拡大に関連した費用で相殺されました。当期、キャピタル・マーケット事業部門は利益が減少しましたが、AIGファイナンシャル・プロダクツ・コーポレーション（AIGFP）は、クレジット、コモディティおよび株式の取引量が引き続き堅調に推移しました」。

「2006年第3四半期、資産運用事業の業績は、米国内の保証投資契約事業（GIC）のポートフォリオのランオフ、ならびに、前年同期と比べて機関投資家向け資産運用事業からの運用報酬が減少したことにより、下落しました。機関投資家顧客の資産は引き続き当社が得意とする上場株ならびに新興市場商品の好調さに支えられ、堅調に推移しました。」

「AIGは、相互に補完し均衡を保つ、マーケットを主導する多様な事業ポートフォリオを擁しています。世界に広がる地理的多様性が、当社の強固な事業力に貢献しています。第3四半期中、AIGは引き続き成長経済の中で、新たな施策に着手することで、グローバル・フランチャイズの開拓に取り組みました。その例として、米国外損害保険事業部門は、中東・地中海および南アジア地域のプレゼンスを拡大するため、ドバイ・インターナショナル・ファイナンシャル・センターで事業を開始しました。また、この取り組みの一環として、米国外損害保険事業部門は、バーレーンに本社を構える新たな地域会社、AIGタカフルを設立し、イスラム法典に従った保険市場に参入しました。またポーランドにおいて、市場のリーダーであるAIGの消費者金融サービス会社は、先ごろ、既存の個人向けローン商品を補完するため、クレジットカード事業を開始しました。さらに、第3四半期の終了後、AIGはインド準備銀行から、インドにおける資産運用ならびに消費者金融事業のフランチャイズ構築の基盤となる、全額出資のノンバンク金融会社の営業許可を取得しました。」

損害保険事業

2006年第3四半期、実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前の損害保険事業部門の営業利益は、前年同期が2.08億ドルの損失であったのに対し、26億ドルとなりました。2005年第3四半期の結果は、異常災害関連の損失（税引前）および正味復元再保険料の21.1億ドルを含んでいます。2006年中には、重大な異常災害はありませんでした。2006年第3四半期のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除いた前年同期の91.44から2.34ポイント上昇し、89.10となりました。当期、特定の貸借対照表計算書に対して実施した改善関連の調整が、正味既経過保険料を9900万ドル、貸し倒れ損失を2.25億ドル増加させました。これらの調整は、AIG内で改善のための努力が引き続き行われていることを示しています。2006年第3四半期の損害保険事業の正味投資利益は、潤沢なキャッシュ・フローならびに、米国内企業向け損害保険グループ（DBG）のパートナーシップからの利益の増加により、前年同期から38.8%増加しました。当期の正味投資利益には、ユニット投資信託事業およびパートナーシップ事業への特定の投資に対する期間外修正に関連した2.13億ドルの利益が含まれています。」

「2006年第3四半期、米国内企業向け損害保険グループ（DBG）の正味収入保険料は、前年同期から10.3%増加し、60.7億ドルとなりました。2005年第3四半期の正味収入保険料は、異常災害に関する再保険料の追加支払いにより、1.22億ドルの減少となりました。2006年第3四半期の正味収入保険料は、従来は再保険として計上されていた再保険契約が預かり金として計上されるようになったことで、4,700万ドル増加しました。これらの項目の変更により、全体として、前年度より約3パーセントの増加となりました。収入保険料の増加に貢献したのは、商業用財物保険、一次損害保険、環境保険および傷害医療保険です。個人向け損害保険事業では、プライベート・クライアント・グループ部門が収入保険料を大きく伸ばしましたが、アサインド・リスク事業のランオフ、ならびにAIGダイレクト、エージェンシー・オート部門ならびに21stセンチュリー事業の落ち込みで相殺されました。当期、ユナイテッド・ギャランティーは、米国内の第二順位のモーゲージ事業および国際事業をはじめとして、すべての事業部門が好調で、収入保険料を大幅に伸ばしました。」

「2006年第3四半期、米国外損害保険事業は、新規事業の開始ならびに新たな販売チャネルにより商業市場向け保険および消費者市場向け保険が伸びを達成したことで、現地通貨での正味収入保険料が前年同期から8.8%増加しました。アスコット・ロイズ(Ascot)シンジケートからの収入保険料の増加、ならびに、前年同期よりも低い復元再保険料が、当期の正味収入保険料の増加に貢献しました。アスコットが引き受ける再保険およびホールセール事業に関連した手数料が増加したこと、ならびに、平均的な取得原価が高い、消費者向け保険ならびに特定の商業市場向け保険に事業構成がシフトしたことが主因となり、経費率が前年度より上昇したため、2006年第3四半期のコンバインド・レシオは83.67となりました。」

「2006年9月30日時点で、損害保険事業の正味支払調整備金は、2006年6月30日時点から13億ドル増加し、総額615.1億ドルに達しました。この数字には、当期中に実施したセントラル・インシュアランス社の買収に関連した5,500万ドルの準備金が含まれていません。前年度以前の異常災害に関連する2006年第3四半期の準備金の純増額は約4,100万ドルとなりました。この数字には、異常災害に関連する増額コスト約4,300万ドルを含みませんが、約1億100万ドルの準備金の割引額の付加コストは含んでいません。トランスアトランティックの異常災害および損害再保険事業、および、割引増加調整前の、2003年から2005年の約4.9億ドルの異常災害損失を含めた異常災害損失総額の一部は、2002年以前の約3.8億ドルの異常災害損失で相殺されました。」

生命保険およびリタイアメント・サービス事業

2006年第3四半期、生命保険およびリタイアメント・サービス事業の実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前のプライシング正味投資利益を含んだ営業利益は、米国内生命保険およびリタイアメント・サービス事業部門が前年同期から9.9%、米国外生命保険およびリタイアメント・サービス事業部門が前年同期から17.8%増加したことにより、前年同期から14.7%増加し27億ドルになりました。

当期、米国内生命保険事業の営業利益は、収入保険料の増加、ならびに、正味投資利益の増加により、前年同期から増加しました。当期、生命保険事業のリテール期間売上げは、特定のユニバーサル生命保険商品の価格改定を行ったこと、ならびに、特定の市場において利ざやを維持するための引受基準が厳しくなったことにより、2005年第3四半期および、2006年第2四半期と比べ減少しました。当期、配当型年金商品事業は、ストラクチャード・セトルメント市場および即時開始年金商品市場において、引き続き非常に好調に推移しました。当期、この事業部門の営業利益は、準備金の増加ならびに、2005年第3四半期中に強化された1,200万ドルの準備金により増加しました。ホーム・サービス事業部門の業績向上は、パートナーシップ事業の利益が前年同期から1,700万ドル増加したこと、ならびに、2005年第3四半期の異常災害損失が800万ドルであったことが主因となっています。

2006年第3四半期、米国内リタイアメント・サービス事業部門では、個人向け定額年金商品事業が引き続き厳しい販売状況に直面しました。当期、投資スプレッドの上昇ならびに、実現キャピタル・ロスに関連して繰り延べ買収費用(DAC)の償却の影響が下がったことが主因となり、営業利益は増加しました。団体向け退職年金商品事業は、スプレッドの縮小、緩慢な資産の伸び、ならびに、IRA(個人退職年金)のロールオーバー・マーケット向けに新商品を成功裏に発売し、既存の契約と置き換えるという内部施策のため、営業利益が減少しました。当期、個人向け変額年金商品事業は、大口の資産運用により手数料収入が増加したことで、営業利益が前年同期から増加しました。

2006年第3四半期、米国外生命保険およびリタイアメント・サービス事業の営業利益は、すべての商品ラインでの好調な業績、ならびに、運用年金資産の増加を反映したものとなっています。生命保険事業の収入保険料の伸びは、東南アジア全体で投資リンク型保険の需要が伸びたこと、ならびに、日本において銀行窓販による一時払い保険商品の需要が伸びたことを反映しています。台湾における好調な業績は、投資リンク型商品の売上げ増加、ならびに、3,500万ドルという高い季節配当利益から生じた正味投資利益の伸びにより達成されました。当期、日本の事業は、個人向け医療・傷害保険市場を中心に繰り広げられている熾烈な競争、ならびにAIGスター生命およびAIGエジソン生命での高利ざや事業のランオフの影響を受けました。当期、再保険および正味投資利益に対する期間外調整により、営業利益が4,200万ドル増加しました。

2006年第3四半期、日本では引き続き不利な為替環境が、前年同期と比べ、個人向け定額年金事業の預り金の増加にマイナスの影響を与えています。ただし、定額年金向けの自動引出特約商品の発売により、2006年第2四半期に比べ預り金が増加しました。この特約は、韓国市場でも導入され成功を収めています。当期、個人向け変額年金商品事業は、前年同期から増加しました。

金融サービス事業

2006年第3四半期、金融サービス事業のFAS第133号(デリバティブとヘッジ活動の会計処理)に従い、現在はヘッジ会計処理の対象とならない、財務的に有効なヘッジ活動の影響額調整前の営業利益は、前年同期から4.2%減少し、5.74億ドルとなりました。

当期、インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション(ILFC)の営業利益は、リースおよびオーバーホールからの利益が、金利上昇ならびに、ヘッジ会計処理を適応することができなかったことによる金利負担増加分との相殺を上回ったため、前年同期から10.3%減少し、1.57億ドルとなりました。FAS第133号に基づくヘッジ会計が適用されないことで、ILFCの借入れ金利には財務的に有効な金利ならびに外貨ヘッジの恩典が反映されていないため、金利負担の増加にマイナスの影響を及ぼしました。ILFCは、好調なヨーロッパおよびアジアの航空市場において、航空機の貸し出しを最大限増加させることによって、引き続き主導的立場を保持しています。当期、キャピタル・マーケット事業の結果は、継続している利回り曲線の平坦化、ならびに、円ドル為替レートが、仕組み債市場の需要に影響を及ぼしたため、前年同期と比べ落ち込みました。ただし、スーパー・シニア・クレジット・デリバティブ、エクイティ・デリバティブおよびカスタマイズされたコモディティ・インデックス商品についての豊富な専門知識が、引き続き世界のお客様の需要を引き寄せていることで、キャピタル・マーケット事業部門の取引量は引き続き増加しています。

当期、消費者金融サービス事業の営業利益は、前年同期から15.8%増加し、2.2億ドルとなりました。これらの結果は、2005年第3四半期の米国内消費者金融サービス事業における約6,200万ドル(税引前)の異常災害関連損失によりマイナスの影響を受けました。ただし、支払いおよび貸し倒れ償却費用の再評価を行った後、アメリカン・ジェネラル・ファイナンス(AGF)は、2006年第3四半期、ハリケーン「カトリーナ」に関連した金融債権・融資準備金を2,200万ドル削減しました。前年度より借入れ費用が上昇し、不動産市場が低迷しましたが、当期、AGFの債権は増加し、正味貸し倒れ償却率は改善されました。海外では、ポーランドおよびアルゼンチン市場での収益の伸びが、利ざやの圧縮ならびに、支店および商品の拡大に関連した経費で相殺されました。

資産運用事業

2006年第3四半期、FIN46R規定(変動持分の連結)、EITF 04-5規定(希薄化後1株当たりの利益に与える条件付転換社債の影響)およびFAS第133号規定の影響額調整前の、資産運用事業の営業利益は、米国内の保証投資契約事業(GIC)のポートフォリオのランオフが大きな原因となり、前年同期から37.2%減少し、2.97億ドルとなりました。当期、マッチド・インベストメント・プログラムはプラスの営業利益を達成しました。機関投資家向け資産運用事業の、業績ベース手数料は前年同期から大幅に減少しましたが、この減少分の一部は機関投資家運用資産の継続的な増加と、これに伴う手数料収入の増加で相殺されました。機関投資家向け資産運用の結果は、前年同期と比べると、取引ベース利益のタイミングによる影響を受けています。2006年9月30日時点で、第三者資産の運用額は、2005年9月30日時点の運用額から約110億ドル増加し、約700億ドルとなりました。

その他の事業

2006年第3四半期、実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前のその他の事業からの営業利益は、前年同期の3.56億ドルの損失に対し、4.7億ドルの損失となりました。これらの結果は、金利負担の増加、ならびに、異常災害損失の減少およびIPCホールディングス社の株式売却から生じた実現利益で部分的に相殺された、ヘッジ活動の影響に関連した実現キャピタル・ロスを反映しています。

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト(www.aigcorporate.com)の投資家向けセクションでご覧いただけます。

将来情報に関する警告的記述

このプレス・リリースや、電話会議における記述には、将来の経済業績および事象に関する財務情報ならびに見解、AIGの経営、事業、商品およびサービスに関する計画ならびに目標に関わる特定の予測、およびこれらの予測および見解に基づく推定が含まれている場合があります。AIGが事業展開している環境ならびに、AIGの事業に影響を及ぼす可能性のある重要な要素の記述については、2006年9月30日期末のForm 10-Kの四半期報告書および、証券取引所に提出した過去および将来についての提出物および報告書をご参照ください。AIGは、新しい情報、将来の事象およびその他の結果にかかわらず、将来情報に関する記述を改訂もしくは変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否定します。

###

AIGについて

AIGグループは世界の保険・金融サービス業界のリーダーであり、130以上の国・地域で事業展開しています。AIGグループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険・生命保険を提供しており、米国内では企業向け損害保険で最大、生命保険でもトップクラスの規模を誇ります。このほか、航空機リースを含む金融サービス事業、全米最大規模で展開するリタイアメント・サービス事業、高い運用技術を誇る資産運用事業も、AIGグループの世界的な事業となっています。日本では損害保険のAIU保険会社、アメリカンホーム保険会社、生命保険のアリコジャパン、AIGスター生命、AIGエジソン生命のほか、グループ会社が多数営業しています。なお、持ち株会社AIG, Inc.の株式はニューヨーク、ロンドン、東京、パリ、スイスの各証券取引所に上場されています。

###

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレス・リリースには、一部、非 GAAP 型の財務数値が含まれています。本リリース中の関連した表、および AIG 本社のウェブサイト (www.aigcorporate.com) の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2006 年第 3 四半期の補足財務情報には、規定 G に基づく、最も GAAP に類似した数値が示されています。

本プレス・リリースでは、当社の業績を評価する上で財務情報を利用される投資家の方やその他の方々にとって最も意味があり最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。GAAP に基づく表示に加え、場合によって、AIG は実現キャピタル・ゲイン（ロス）、2006 年度の会計方針の変更による累積的影響、FIN 46R 規定の影響、EITF 04-5 規定の影響、FAS 133 号の影響、および異常災害関連損失の影響調整前の収入、純利益、営業利益、関連した成果、ならびに期間外調整も示しています。

AIG は、FIN 46R 規定の影響、EITF 04-5 規定の影響および、FAS 第 133 号の影響は含めていません。なぜならば、これらの項目を除くことが、投資家の皆様にとって事業結果をより正確に評価することに役立つと考えているからです。例えば、AIG のデリバティブは、たとえそれらがヘッジ会計に該当しない場合でも、財務的には有効なヘッジです。同様に、AIG は、FIN 46R 規定、あるいは EITF 04-5 規定に基づく連結組織の結果を除いた提示は、AIG が保有するものと想定されている経済的利益を実際には保有していない、GAAP 型の提示よりも、意味のあるものであると考えています。

AIG は、投資家の皆様が生受事業の業績をより正確に評価できるように、異常災害関連の損失は含めていません。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

AIG は、事業利益（損失）を示すことは、投資家の皆様にとって有益なだけでなく、損害保険事業の結果を理解していただくために非常に重要となる財務情報を提供することになると考えています。損害保険会社の営業利益は、事業利益（損失）、正味投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）という 3 つの要素を含んでいます。事業利益（損失）の開示がなければ、保険会社が中核的業務活動でどれほど成功を収めているのか、あるいは、引受けリスクはどうなっているのかを判断することは不可能です。事業利益（損失）の情報を開示せずに、投資利益と実現キャピタル・ゲイン（ロス）を営業利益に含めた場合には、引受け損失を覆い隠してしまう可能性があります。正味投資利益額は、引受け結果と全く関係のない、金利やその他の要素の変化が原動力となる場合があります。事業利益（損失）は、損害保険事業の業績を判断するのに AIG の上級経営幹部が用いている重要な測定基準です。AIG は、州の保険局に提出する法定財務諸表で義務付けられている測定値を含めるとともに、AIG の連結財務諸表に記述された情報とこれらの測定値との間により一貫性を保たせるために、繰延べ取得費用の変動に対して調整を行っています。さらに、同じ理由から、AIG を追跡している証券アナリストも、分析の際は実現資本取引は除いており、当社に対し、GAAP 情報以外の情報の提供を常に要請してきています。

AIG は、保険当局により定められている、もしくは認められている会計原則に従って生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高（収入保険料、預り金およびその他の報酬）、総収入保険料、正味収入保険料およびコンバインド・レシオを示していますが、これは、これらの会計原則が保険業界で使用されている業績の標準的な測定方法であるため、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由によるものです。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位:千ドル、ただし1株あたりの情報を除く)

	6月30日までの3ヶ月間			6月30日までの6ヶ月間		
	2006年	2005年(a)	増減	2006年	2005年(a)	増減
損害保険事業:						
正味収入保険料	\$ 11,224	\$ 10,312	8.8%	\$ 34,113	\$ 31,746	7.5%
正味既経過保険料	11,217	10,134	10.7	32,365	30,506	6.1
事業利益(ロス)	1,227	(1,195)	-	3,746	80	-
正味投資利益	1,370	987	38.8	4,102	3,062	34.0
実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前利益(損失)	2,597	(208)	-	7,848	3,142	149.8
実現キャピタル・ゲイン(ロス)(b)	28	71	-	(29)	248	-
営業利益(損失)	\$ 2,625	\$ (137)	-	\$ 7,819	\$ 3,390	130.6%
損害率	62.56	88.48		64.14	76.58	
経費率	26.54	23.58		24.05	22.53	
コンバインド・レシオ	89.10	112.06		88.19	99.11	
重大な当期異常災害損失調整前コンバインド・レシオ	89.10	91.44		88.19	92.26	
生命保険およびリタイアメント・サービス事業:						
GAAP 収入保険料	\$ 7,639	\$ 7,109	7.5%	\$ 23,036	\$ 21,953	4.9%
正味投資利益	4,893	4,667	4.8	13,900	13,151	5.7
プライシング正味投資利益(c)	74	88	(15.9)	286	269	6.3
実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前利益	2,698	2,352	14.7	7,827	7,074	10.6
実現キャピタル・ゲイン(ロス)(b)(c)	(250)	(104)	-	(403)	(287)	-
営業利益	2,448	2,248	8.9	7,424	6,787	9.4
金融サービス事業:						
FAS 133 調整前営業利益	574	599	(4.2)	1,708	1,743	(2.0)
FAS 133 (b)	783	(375)	-	(1,058)	1,740	-
営業利益(損失)	1,357	224	-	650	3,483	(81.3)
資産運用事業:						
FIN46R、EITF 04-5 および FAS 133 調整前営業利益	297	473	(37.2)	1,203	1,366	(11.9)
FIN46R および EITF 04-5 (d)	44	77	-	410	189	-
FAS 133 (b)	-	18	-	-	127	-
営業利益	341	568	(40.0)	1,613	1,682	(4.1)
その他の利益(控除) - 純額	(531)	(378)	-	(1,185)	(304)	-
その他の実現キャピタル・ゲイン(ロス)(b)	61	22	-	14	(141)	-
法人所得税、少数株主持分および会計方針の変更による累積的影響額調整前利益	6,301	2,547	147.4	16,335	14,897	9.7
法人所得税	1,943	748	-	5,066	4,537	-
少数株主持分および会計方針の変更による累積的影響額調整前利益	4,358	1,799	142.2	11,269	10,360	8.8
税引後少数株主持分 -						
実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前利益(損失)	(137)	(48)	-	(678)	(313)	-
実現キャピタル・ゲイン(ロス)	3	(6)	-	(16)	(14)	-
会計方針の変更による累積的影響額調整前利益	4,224	1,745	142.1	10,575	10,033	5.4
会計方針の変更による累積的影響額(税引後)(e)	-	-	-	34	-	-
純利益	4,224	1,745	142.1	10,609	10,033	5.7

プライシング利益(損失)調整前実現キャピタル・ゲイン(ロス)、税引後	(62)	14	-	(88)	19	-
実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前 FAS 第 133 号に基づく利益(損失)、税引後	267	(133)	-	(890)	1,644	-
会計方針の変更による累積的影響額(税引後) (e)	-	-	-	34	-	-
修正純利益 (f)	4,019	1,864	115.6	11,553	8,370	38.0
利益に対する重大な当期異常災害関連損失の影響、税引後	-	1,569	-	-	1,569	-

普通株式1株当たり - 希薄化後:

純利益	1.61	0.66	143.9	4.04	3.82	5.8
プライシング利益(損失)調整前実現キャピタル・ゲイン(ロス)、税引後	(0.02)	-	-	(0.03)	-	-
実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前の FAS 第 133 号に基づく利益、税引後	0.10	(0.05)	-	(0.34)	0.63	-
会計方針の変更による累積的影響額(税引後) (e)	-	-	-	0.01	-	-
修正純利益 (f)	\$ 1.53	\$ 0.71	115.5%	\$ 4.40	\$ 3.19	37.9%
利益に対する重大な当期異常災害関連損失の影響、税引後	-	\$ 0.60	-	-	\$ 0.60	-
平均発行済み希薄化普通株式	2,626	2,624		2,625	2,624	

* 規定 G に従った調整を含んでいます。

(a) 特定の勘定は、2005 年度の表示に合わせるため再分類されています。

(b) FAS 第 133 号に基づくヘッジ会計処理に当てはまらない関連する為替差損益を含むヘッジ取引に起因する影響額を含んでいます。

(c) 本表示の目的のために、プライシング正味投資利益は実現キャピタル・ゲイン(ロス)合計の要素として、分離されています。これらは、いくつかの国において特定の生命保険商品の価格設定の際に利益が固有の要素となる、実現キャピタル・ゲインの金額を示しています。

(d) FIN 46R 規定「変動持分の連結」に従い連結された AIG が監理する特定の株式および不動産ファンドの結果、ならびに、EITF 04-5 の規定「有限責任出資者が特定の権利を有する場合に、無限責任出資者が個人として、あるいはグループとしてリミテッド・パートナーシップあるいは類似事業体を支配しているか否かの判断」に関連し、2006 年 1 月 1 日から実施された、連結された特定の AIG が管理するパートナーシップの結果を含んでいます。

(e) FAS 第 123 号規定「株式報酬の会計処理」に基づく会計方針の累積的影響額を示しています。

(f) 修正純利益は、プライシング正味投資利益、会計方針の変更による累積的影響額および FAS 第 133 号の規定「デリバティブ投資およびヘッジ取引に関する会計方針」の影響額を含んだ、実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前の税引後の数字を示しています。